

2006年度 サロン2002 総会議事録

【日 時】2006年5月20日（土）17：30～20：00

【会 場】筑波大学附属高校会議室

【議決成立要件】2006年度会員数（総会時）109名（ただし2006年度会費未納者も含む）。出席者数16名、欠席連絡者のうち委任状提出者数49名、合計65名で、定足数に達した。

【議長】中塚義実

【参加者】16名

麻生征宏 安藤裕一 牛木素吉郎 宇都宮徹壱 加納樹里 川井寿裕 岸卓巨 鈴木崇正 田中俊也
田中理恵 名方幸彦 中塚義実 中村敬 本多克己 松木淳 両角晶仁

【欠席連絡者】54名。うち委任状提出者は51名

浅野智嗣 池田誠剛 泉優二 伊藤彰 井上俊彦 井上俊也 上間匠 梅本嗣 大橋二郎 賀川浩 梶野政志 木口理恵 北岡真幸 熊谷建志 古藤田信博 小林俊文 齋藤健司 榊原孝彦 笹原勉 塩沢拓也 嶋崎雅規 島原裕司 清水諭 神宮司親治 高崎康嗣 高木亮 高橋義雄 竹中茂雄 茅野英一 土谷享 仲澤真 中塚頼彦 野崎浩之 野田直広 早川武彦 藤田稔人 麓信義 堀美和子 前田博子 松岡耕自 松下潤 松下徹 松本行弘 宮崎雄司 村木初年 村林裕 室田真人 安松幹展 山田告人 山田智子 山中麻耶 由利英明 依藤正次 涌田龍治

※委任先：中塚義実(39名)、徳田仁(1名)、議長(7名)、総会(2名)、委任先不明(3名)

【議事録作成】岸卓巨

<目次>

◆ 議題

報告Ⅰ. 2005年度事業報告および決算

報告Ⅱ. 2006年度会員募集について（審議含む）

報告Ⅲ. 理事会報告

審議Ⅰ. 2006年度の事業計画および予算について

審議Ⅱ. 規約について

審議Ⅲ. これからのサロンの方向性—特に「会員」について

審議Ⅳ. SNSについて

再びⅠ. 2006年度事業計画及び予算

この総会は、2006年度はじめの総会である。サロンは、年度初めと年度末（HP上で開催可）に総会を行うことになっている。今回の総会は、本年度どうするかと昨年の報告事項を中心に話し合う場である。

報告 I. 2005 年度事業報告及び決算

■会計報告

中塚：本来は2005年度末のメールでの総会で審議されている事なのですが、特に会計の部分でまだ終わっていないところもあるので、それを確認していきたいと思います。特に決算に関するところを会計担当の川井さんからお願いします。

川井：17年度決算ということでお手元の収支決算書をご覧ください。

○決算報告（案）の内容

収入の部

- ・サロンは会費収入しかほとんど無いわけですが、会費受入に関しましては、当初予算を366,000円で計上していましたが、それを上回る会費をいただきました。この部分は、会員が増えたという訳ではなく、1人あたりの納めていただく単価が多少上がっているというところで、400,000円の会費受入がありました。
- ・雑収入としましては、月例会余剰金15,000円と預金利息4円の合計15,004円。
- ・それと前年度の繰越金が139,685円ありましたので、決算総額が554,689円ということです。

支出の部

- ・月例会補助は、収入の部で余りが出ていますので決算額0円になります。
- ・プロジェクト補助につきましては、昨年度の総会の時には、予備費を多く積んでいたのですが、今年度の予算ではこの部分に多く配分しました。内訳は、シンポジウムの補助に100,000円とその他何かやろうということになった時にプロジェクトの補助としてできるように100,000円積みまして、合計200,000円という形で予算を組みました。それに対しまして、今年は、11月にシンポジウムを行ったのですが、本多さんなどのご尽力によって、多くをドイツ文化センターの方で負担していただいて、ほとんど経費はかかりませんでした。唯一、お手元に届きます報告書に関しましては、鈴木さんをはじめご尽力いただきまして作られたのですが、それに必要な経費のみを負担するというので、合計87,445円の補助で済みました。

プロジェクトその他補助に関しましては、1つ目は、去年既に出ていましたが、サロンロゴをデザインしてくださったサロン会員でもあります土谷さんに謝礼として30,000円受けとって頂きました。それから、DUOリーグが10周年ということで、その記念誌への協賛金として15,000円。東京都U-18フットサル大会報告書への協賛金として31,500円。トータルで76,500円の支出がございました。

- ・印刷製本費につきましては、名簿作成代として 59,000 円。
- ・通信運搬費につきましては、毎月の月例会の案内や報告の手間賃として中塚理事長に 74,400 円。それから名簿の発送については、海外の方も 3 名いらっしゃって、その分も含めて名簿の郵送料として 39,210 円。合計 113,610 円。
- ・借損料は特にございませんでした。
- ・雑役務費としてはメーリングリストの契約料として 6,300 円。それから振込手数料 1,260 円の合計 7,560 円
- ・事務費 2,310 円に関しましては名簿の発送作業などで事務用品などを購入しました。
- ・予備費につきまして、支出はございませんでした。

合計

- ・収入総額 554,689 円に対しまして、269,925 円の支出がございましたので、差し引き 284,764 円を来年度に繰り越すということでございます。

■シンポジウム報告

中塚： シンポジウムについての補足を本多さんよりお願いします。

本多： 今回のシンポジウムは、ドイツ文化センターが日独サッカー交流展という事業を、サロンのシンポジウムの他にも J リーグや朝日新聞が行ってものを含めて開催してくださいましたので、ほとんどその予算の中で今回のサロンシンポジウムを開催することができました。従いまして、サロンとしての支出はほぼゼロに抑えられたということです。

中塚： 報告書編集長である、鈴木さんからも補足をお願いします。

鈴木： 報告書を作成するという点では、原稿料がないというのが大きいと思います。コストについて言いますと、印刷業者を変更した関係で、印刷費が 179,235 円に収まっているのは、例年に比べて 3~4 万円安くなっていると思います。

中塚： 報告書に関しては、本来は報告書を送る費用についてもこの会計に入れるべきですが、その作業が遅れていまして、2005 年度の会計に反映することができていません。この「クラーマーさんありがとう」という報告書ですが、まだ私の体育教官室に 200 部程置いてあります。これから送料などが発生すると思いますが、それは次年度送りということになります。

■プロジェクトその他補助について

中塚： まず、DUO リーグ記念誌への協賛金についてですが、この記念誌は、今年度会費を払われた方には、名簿や「クラーマーさんありがとう」と共に送られます。この記念誌は、基本的には DUO リーグ加盟クラブから 1 クラブ 5000 円ずつ徴収して作っているのですが、ぜひサロンの関係の方にも行き届くようにしたいということもあって、15,000 円でサロンの広告を載せました。DUO リーグ加盟クラブそれぞれに 50 冊ずつ行き渡るようにして 5000 円ずつなので、1 冊 100 円。そして、サロンの会員が 150 人いるとして 100 円の冊子が届くとしたら 15,000 円ということで算出し、これを計上してあります。これ

については、年度末理事会・総会でも通っていますので、問題ないかと思えます。

次に、東京都U-18 フットサル大会報告書についてですが、こちらについては理事長裁量で広告を載せました。この報告書は日本サッカー協会からの補助金を受けて、U-18年代の東京都のフットサル大会の実態について東京都サッカー協会のフットサル委員会でもとめたものです。これも、「クラマーさんありがとう」と同じように全国各地に配布してこの取り組みを知ってもらいたいという意図なのですが、そこにサロンの広告を掲載することで全国の人々に認知してもらえというのがねらいでもあります。しかし、正直に言いますと、この報告書の制作費がトライアルFA補助金だけでは足りなくて、サロン・DUOリーグ・セリエなど関係しているところから少しずつ広告を出して頂いて、制作費を補ったということです。実は、監査の高橋さんから「サロン2002の補助事業については、なるべく総会上でその年度の計画を公表し、会員の承認を得た上で実施することが望まれます。(2006.5.19)」というご指摘をいただいたのですが、予算の範囲内であるとは言え、組織の動かし方としてドタバタすぎたなという反省があります。

中塚：以上の点を踏まえて、ご意見などございますか。ないようでしたら、2005年度についての報告は終わらせていただきます。

川井：決算と予算に関することは総会の議決を必要としているので、報告ではありません。了承という形ですね。

中塚：予算はまだでしょ。

川井：そうですね。決算についてですね。

中塚：決算は、本当は2005年度末の総会で終わっていなければいけないものが、ずれ込んで、それで今了承された訳ですね。

報告Ⅱ．2006年度会員募集について（審議含む）

中塚：それでは、会員募集について川井さんからお願いします。

川井：サロンが会員制度になりました2000年度からの推移を見て頂きますと、最近では100名を少し超える程度ではほぼ横這いになっています。女性会員数についても、だいたい横這いという状況です。今年度も既に109名のご応募をいただいていますけど、これからどのくらい増えるかと言うと、毎年あまり増えない。そこは、努力不足であるかとも思っています。これから2000年（150名）くらいまで回復していくと良いなとも思っています。

中塚：ここは、審議の1つ目の「名簿」という部分と合わせて議論しましょう。

補足しますと、2005年度会員で既に8名の方が退会の意思表示をされています。

<2005年度会員で退会の意思を表示された方>

今川良子 内田正人 梅井千妙子 影山茂之 影山晴康 木村優一 坂下佳之 福岡哲朗

個々に事情がおります。例えばある方からは、志は同じなのだが、会員制ということで組織の一員とし

て使命を果たせないというような趣旨のコメントを、退会理由としていただいています。

ところが、退会の意思表示はされていないが、会費を納めていないがために、自動的に退会扱いせざるを得ない方が 16 名います。別の言い方をすると、2005 年会費未納の 16 名は、「2005 年度も、実は入会していなかった」と言わざるを得ないということです。これらの方については、会計の川井さんから何度も連絡していただいているにもかかわらず、このような形になってしまいました。これらの方は、今年度の名簿からは削除させていただきます。これらを抜いた数が、現会員数の 109 名ということになっています。

サロンには、お互い志を同じくする人が入ってきている訳だから、退会勧告などは規約の中には無いわけですが、このような状況をどう考えたらいいのでしょうか。16 名の中には、総会の出欠連絡をして下さっている方もおられます。何かの手違いで連絡がいついていないだけの人もあるような気がします。僕からみなさんに一斉にメールを送ったときにエラーで何通か返ってきているのも事実です。しかし、返ってきているように見えるけど実は届いている人もいて、よく分かりません。

川井： 会費は、おととしまで 1 口 2000 円で、去年から 3000 円に上げたのですが、2000 円しか振り込まれていない方が 2 名います。この方については、会費が不足しているので納めてくださいというメールは送らせていただいているのですが、全くリアクションがありません。普通、会費が不足していれば、会員になれないということでしょうから、そのような扱いをしています。

加納： すぐ会える人もいますので、もし今から何か聞いてみるということでしたらできますが。

中塚： 妥協案として、今月いっぱい猶予をおいて、ここに出席している我々で分担をして、とにかくどうかこの人たちと連絡をとって、会費を納めてもらえないかと考えているのですが、いかがでしょうか。

川井： 未納者が出始めたのが去年からで、それまでは、電話とかで連絡して納めてもらっていました。私もなかなかそこまで時間がとれないということもあって、もうメールでの督促にしているのですが、そうするとこのような状況になってしまいました。

中塚： 今年は無常ですね。

加納： 何らかの手違いで連絡がいついていない場合が気の毒ですね。

川井： それはメールだからあり得ますよね。今年はそのようなことが防げるように、メーリングリストを管理している涌田さんと連携を取って、アドレスを確認していただいて、名簿を管理しようとしています。

田中俊： ホームページに、アドレスは載っていますか。もし、アドレスが変わった場合はホームページのアドレスに事情を送って頂くようにすれば、メールが行き違いになってしまった場合でも新しいアドレスが手に入るじゃないですか。

川井： ホームページには名前までしか載っていないと思います。今年の名簿にホームページに掲載できる紹介文ということで書いていただいたので、掲載して欲しいという人は掲載できます。一応エラーで返ってきてしまったアドレスは涌田さんに確認していただいて、もう 1 度送ったら、もう返ってこなかったのが届いてはいるとは思いますが。ただ、1 日に相当量のメールを受けとる人だと、読まずに削除されている場合もあるかと思うので、名前は連名で入れています。

本多： では分担決めてしまいましょうか。

川井： やはり顔を知っている人がいいですね。

<2005年度会費未納者に対して、総会参加者が分担して連絡することとなり、割り当てを決めた>

田中俊： サロンは入会金がないですね。学会とかだと入会金があって、入会してしばらく行かないで3年後にその会に出席すると、未納3年分の年会費を払えという話になるんですね。サロンでも、もう1度入会したい時に、会費はその年度分だけでいいのか、そろそろ決めておいた方がいいと思います。

中塚： そもそもサロンでは、お金を払わない人は会員ではないので、「未納の会員」を想定していません。ですから、3年後に入りたいときは、またその年度の会費を払えばいいことになっています。

それでは、未納の方に関しましては、今月中に支払っていただければまた連絡を再開する。そうでなければ、来月からはサロンの通信も送らないということで扱いたいと思います。

加納： 2005年度分が未納ですから2005年度分と2006年度分の最低2年分払っていただくということですね。

中塚： ただ、2年分の6000円を1度に振り込まれると2006年度分として6000円払ったということになるので、できれば2つに分けて欲しいですね。

川井： だれが未納かというのはこちらで確認できるので、1度に振り込んでいただいても2年分ということで判断できますよ。分けてもらえれば一番良いのですが。

中塚： サロンの会費はいくらと決めている訳ではなくて、払える人には多く払っていただくようにしているので、今回1度に6000円払っていただいたら、それは2005年度分として6000円払っていただいたと解釈するのが今までの流れです。

でも今回は、川井さんが言われましたように、「みなし判断」としますか。

加納： 2回に分けてだと面倒くさかってやらないかもしれませんね。

中塚： ある方が2005年度の会費を払ってなくて、先日お会いした時に、すぐに払っていただくようにということと、2005年度分と2006年度分を分けて払っていただくように何度もお願いしたのですが、結局まとめて払われたようです。

川井： とりあえず払えばいいという感覚だったんだと思いますよ。

両角： とにかく払っていただくことが重要なので、今回は2回に分けていただかなくてもいいのではないのでしょうか。

川井： 振り込み額から最低金額の3000円を2005年度分として、残りを2006年度分として判断しましょうか。

中塚： では今回だけはそうしましょう。と言いますのは、いつも会費の納入を催促すると、自分は払ったつもりになっている人がいるんです。しかし、それは前年度分だったりするんですね。そういう人は、毎年、名簿もバックナンバーを受けとっているんです。

川井： そうすると、その代金も、昨年度分分で計上しないといけない。前年度とぐちゃぐちゃになってきていますね。

中塚： 今年度分に関しては、先ほど割り振った担当者が、当該者に2005年度分を払ってもらおうように言う。それでも支払がなかったら通信は送らないようにするというのでいきましょう。

毎年、この話をするので、サロン会費の自動振り込み制度導入についての話が出ますが、このような話は担当を決めないと先に進めないで、会計担当の川井さんと岸さんで方法を探ってみてください。ヒン

トとしましては、日本フットボール学会が、立ち上げ時から自動振り込み制度を導入していて、安松さんがその担当をされているので聞いてみてください。

報告Ⅲ. 理事会報告

中塚：2005年度末の報告は、2005年度末の総会メール上で既にしてしています。前の理事会で出てきた話、お手元の資料にある通りです。月例会の参加費の件などはこの総会で話しましょうということで、年度末の理事会・総会は通っています。この総会に先立ちまして、メールで理事会を開き、この総会の議題について、理事会で審議したという形です。

■ 2006年度役員・運営委員について

中塚：役員について、理事会の報告として話さなければいけないのですが、サロンの役員・運営委員一覧をご覧ください。2000年度からの役員名を入れてあります。2005年度から、役員選出規定に則って選出される形になり、2006年度からは選出委員会が推挙した方々を信任するような形のやりとりをメール上で実施して、この様な方が既に承認されています。

理事長：中塚 副理事長：本多 理事：徳田・田中(俊)・安藤・宇都宮(徹) 監理：高橋(義)

これらの方々が役員ということになります。それから、運営委員は理事会の議を経て理事長が委嘱するという形になっています。先ほどから話が出ていますが、名簿・会計担当として、引き続き川井さん。そして、あまりにも仕事の量が多いので、若手で動ける方ということで、岸さんに今年度から依頼しています。メーリングリストの担当は、引き続き、涌田さん。一橋大の大学院生でしたが、この4月から仙台大に就職されて、それで時間が出来たのか、今いろいろな仕事をやってくれています。ホームページ担当は、本多さんは監督という感じですね。そして、プレーヤーが山田智子さんということでやっていただいています。事業担当として、麻生さん・中村さん・安松さん。前年度は内藤さんが入っていたのですが、今年度は先ほどの事情もあるので外れてもらっています。このようなスタッフでいきたいと思います。

審議Ⅰ. 2006年度の事業計画および予算について

■ 収入の見込み

川井：予算書(案)をご覧ください。前年度の繰越金が284,764円。前年度と比べると、145,079円プラスされています。会費の見込みは17年度と同様に400,000円を見込んでおります。雑収入は、プロジェクトや月例会の余剰金を想定しています。そして、繰越金が大きい訳ですが、トータルで前年度より19万円増の70万円の予算を見込んでおります。

中塚：それ以外の収入はないのですか。

中塚：ないですね。それ以外は、会費収入がどこまで伸びるかというところですが、高額納入者については既に入ってきているものなので、あまり変わらないと思いますけど、あとは新規入会者がどのくら

いいかというところですかね。

1. 事業計画について

■月例会

中塚： それでは収入の見込みを踏まえて事業計画についてですが、例年やっていることもあれば、今年度新たに、また今年度特別にということもあると思うので、その辺りを見ていきたいと思います。

サロンの活動の柱は月例会です。参考資料として 2005 年度の月例会の一覧がそこにありますが、もう月例会も通算 112 回を、4 月の末にここで、マニアックな話を中心に楽しみました。ご存知の様に、月例会の 100 回記念は、2005 年度 3 月末に、サッカーバー「フットボールラヴァーズ」で行いました。このお店はもうなくなったんですね。

宇都宮： そうですね。

中塚： 今年度は 10 周年なので、「何かしましょう！」というのが、ここに挙げてあるプロジェクトです。今年も月例会は月 1 回ペースでやっていきたいと思っています。基本的には、会員が、自分の持っている、あるいは自分の周辺で起きている話題を出し合うのが原則だと思っていますが、昨年度も、会員の紹介で会員外の方の話を聞く機会もありました。武田さんはプレゼンしていただいた時は会員外だったのですが、その後入会されたので、「当時」という書き方になっています。こういう企画もあっていいと思うので、今話題をお持ちの方がおりましたら、早めに予約していただけたらと思います。運営委員の、特に事業担当の方に、月例会を持ち回りで担当してもらいたいと思います。今年度は麻生さん、中村さん、安松さんです。1 年間のこの辺りを担当したいという見通しがもしあればと思いますが、どうでしょうか。

麻生： 僕は秋になると動きやすくなります。8~10 月くらいにやりたいと思います。

中村： 自分が発表するという事も含めてですね。

中塚： もちろん。

中村： 千葉の九十九里の方で出張サロンを企画したいと思っています。先方の都合もありますが、寒い時は嫌だと思うので、そこら辺をつめてからじゃないと分からないと思います。

中塚： では、担当月を決めるところまではいきませんね。

麻生： 僕自身は、7 月までは仕事の関係で時間が取れないのですが、その後はこれまでの年に比べれば時間をつくれるかと思っていて、担当の方と相談しながらできるところでやっていこうと思います。

中塚： ここにいる方で、この月は予約とかがあれば言ってください。

本多： 具体的に出てきていることは、まだないんでしょうか。

中塚： まだありません。6 月には出張サロンをフランクフルトでやるぐらいです。

田中俊： 例年、夏休み前後に出張サロンをやって、シンポジウムは秋という感じですよ。

中塚： 以前はシンポジウムを夏にやっていたのですが、夏だと人が集まりにくいということで、近年はだいたい 11 月にやっていますね。11 月にやれば年度内に報告書を作成できるということもあります。

川井： いろいろな意味でもっと学生諸君に参加してもらえるとありがたいですよ。

本多： 情報発信にも関わってくるのですが、現在 mixi が流行しているような SNS というものをテーマに、一度月例会で報告させていただきたいと思っています。

中塚： 時期的にはいつ頃がいいですか。

本多：いつでも大丈夫です。それは、うちの会社でやっていますというのと、他にもいくつか、うちから見ると競合になるんですが、サッカーのSNSなどもありますので、それを3社くらいで発表しようかと思っています。

中塚：SNSは何の略ですか。

本多：Social Networking Service ですね。Social Networking Site と言っているところもあって、総務省などは Social Networking Site って言っていますね。

中塚：当然ワールドカップイヤーなので、ワールドカップを振り返る企画がシンポジウムになるのかもしれませんが、やりたいですね。当面、6月はどうでしょうか。出張サロンをフランクフルトでやるので、それで良いといえば良いんですが。レギュラーの国内バージョンもあっていいのかなって気もするんだけど。

■出張サロン in フランクフルト

本多：日にちは決まっているんですか。

中塚：ブラジル戦前日の6月21日（水）ですね。集まってからどこかでオランダ対アルゼンチンを見ようと考えています。

田中俊：23日（金）の話も何かありませんでしたっけ。

中塚：6月23日（金）も、向こうにいる人で何かしませんか？ 現地のスポーツクラブを見に行ったり、そこで汗かいたり。ビデオ撮ってきたいなというのもすごくあるので。

加納：フランクフルト～ドルトムントのラインにいるんですか。

田中俊：自分自身、まだよく分かってないんですよ。フランクフルトにいるらしいんですが。

川井：中塚さんと田中さんが一緒にいらっしゃるんですか。

中塚：ホテルや移動は別なんですけど、他にもいて、岩手の古藤田さんも来ているんです。もう1人高木亮さんもそのツアーにいて。その4人と岸君と本多さん、徳田さんも現地にはいますよね。牛木さんもいらっしゃいますよね。

牛木：僕は6月5日に出発して、7月12日に帰って来ますが、フランクフルトにずっとペンションを借りています。

田中俊：じゃあ牛木先生のところに集まるのが一番いいですね。

牛木：電話がないんですが、フランクフルトの中央駅からは市電でもいいし、地下鉄でも行けます。いろいろな人が来ると思うので、僕自身は廊下を挟んでベッドが2つあるという、男女が来ても別々の部屋にできるようなタイプの2ベッドルームを1部屋借りていて、その他にツインの1ルーム2ベッドの部屋を1部屋抑えてあって、それに加え、何日に行くぞと言っている人がいるので、それに合わせて付け足して借りています。フランクフルトは大きな町ですから、試合のない日は宿が取れないなどはないと思いますけど。

加納：23日はずっと空いているんですか。全く何でもなような普通のスポーツクラブでもいいですか。

中塚：もちろんです。むしろ、その方がいいと思います。

加納：ビュルツブルクというところなら知っている人がいるので聞いてもらえる可能性はありますが、まだ分かりません。

牛木：何でもいい普通のクラブを見てみたいというのであれば、フランクフルトにはいくらでもあります。昔の経験ですが、僕は昔、ミュンヘンにオリンピックの準備のために行って、1日空いたので、バイエルンミュンヘンとミュンヘン 1860 に飛び込みで見に行ったことがあります。

田中俊：それでOKなんですか。

牛木：ミュンヘン 1860 の方は、非常に親切なおじさんがいて案内してくれました。ですから、もし日にちが決まっていて、場所が決まっているのであれば、探すのはそんなに大変ではないと思います。僕らの仲間に明石さんという方がいますので、だめもとで探してくれというのであれば頼めますけどね。フランクフルト以外でも、ほとんどの会場が車で3時間半以内くらいのところにあります。ただ、汽車に乗っているのが楽しみという方と、退屈だという方がいますからね。

加納：金曜日だと、クラブハウスは見せてくれても、何もやっていない可能性はあります。

牛木：午後から行けば子供たちが遊んでいるかもしれません。

中塚：とにかく6月の月例会の海外版はこんな感じで何となくまとまってきたそうですね。つまり、6月21日(水)の14時くらいに現地集合して、現地情報をお互い交換して、公園へ行ってオランダ対アルゼンチンを観戦する。そして、22日はブラジル戦があるのでそれぞれの活動となり、23日に再び、現地のスポーツクラブ探訪みたいなことができるといいですね。このことは、行ける人たちで連絡を取り合って具体化しましょう。

6月は出張サロンがあるから、また、みんなワールドカップで夜も予定が埋まるから、6月の都内での月例会はなしにしましょう。ワールドカップ終わったところで、報告会みたいな形でやれるとおもしろいですね。

■これからの月例会・シンポジウムの方向性

鈴木：今、予算をどう使うかという話で、それに沿って月例会どうするかという話ですね。前にも何度か話が出ていたかもしれませんが、年間だけでなく、半年くらい先を、だいたいこのような話があるからというプロデュース的観点というのが必要だと思うんですよ。先ほど、辞められた方にもいろいろな理由があるという話がありましたが、会員の推移を見ても、この3年間会員数は横這いなんですね。ということは、辞められた方とほぼ同数だけ新規に入られた方もいて、それぞれ何かメリットを期待されていると思うんですね。その軸になるのが月例会だと思うので、月例会を活性化するとか、そういう風に、ある程度の計画というか、こういう会でこういう人がこういう趣旨でしゃべりますよという事をアナウンスすることが重要だと思うんですね。具体的プランが何もなくて、このようなことを申し上げるのは恐縮ですが、そういう考え方でみんなで議論すべきだと思うんですね。ワールドカップという特別なものがある年にどのタイミングで何をもってくるのがいいのか、年間計画を立てるのは難しそうなので、だいたい秋口くらいまでの予定を立てられれば良いと思うんですが。

田中俊：秋にワールドカップでシンポジウムをやるのであれば、その前振りじゃないけど、いろいろな人が私はこういう風にワールドカップを見ていましたというのを話すのがいいのかもしれないね。

鈴木：もちろん会員の私見をいろいろなところに盛り込んでいくのが趣旨なんだけど、例えば普段呼べない方を呼んで、しっかりとペイをして話していただくということも、これだけの予算があれば可能でしょう。クラマーさんのような特別な方もいらっしゃるし、海外からこういう人来るらしいよという情報を得て、やっていくことも、これだけ予算があればできると思います。

川井： 前年度あまり事業費がかからなかったため、今年度はシンポジウムとその他プロジェクトへそれぞれ 10 万円ずつ上乘せしているの、トータルで 40 万円あるということで、かなりのことができるかと思えます。

中塚： 鈴木さんの言われる通りで、そういうことをしましょうというのが、数年前から出ていて、それで運営委員が設けられ、もちろん運営委員だけでなく理事も含めてですが、全体のプランニングをして、その中のこの会を担当しますというスタイルにしましょうという話をしていたんですがね。なかなかそれが機能していませんね。

名方： 年間テーマって決まっているんですけど。

中塚： 決まってないです。

名方： 年間テーマを決めて、その中でどのような話しをするかを決めていった方がいいのではないのでしょうか。ワールドカップの年はワールドカップであったり、学校スポーツなら学校スポーツであったりという感じで。年間だけでなく半年ずつくらいで考えた方がいいと思います。

田中俊： 月ごとだとまったく脈絡もないですもんね。僕も市民フォーラムというのをやっているんですが、今年からシアターが民間委託になって、今まで半年前だったんですけど 1 年前から押さえないといけなくなりました。たかだか 400 人のところを 1 年前から押さえて講師をだれにするかって決まらないんですよ。ようやくこの前、半年後のものを決めたところです。「スポーツと皮膚」というテーマです。以前は、フットボール学会にも来ている栄養士さんと呼んだこともありました。その時は、400 人以上来ちゃって、舞台袖で何人も見られていたんですが、それでも講師への謝礼は 5 万円なんです。一応ランクがあって、大学の医学部教授だと 15 万円くらい出そうというんですが、15 万円は受け取ってもらえなくて、だいたい 10 万円くらいです。5~10 万の幅で、400 人が、丸 2 時間質疑応答までやるということで、参加費は無料ですが、町からの援助も出ています。ただ、今までは、シアターを教育委員会を通して押さえられたんですけど、民間委託になったので、今年からは 1 年前に押さえないといけなくなったんです。そういうのがあるから、1 年後を決めるのは、大変といえば大変ですよ。

牛木： イベントを年に 2 回やろうというのはもともとの方針ですか。

中塚： 公開シンポジウムを年に 1 回やろうというのはあるんですが、その他の「出張サロン」というのは、いつもここでやっている会を、サロンの会員は全国にいるので、その人たちのところに行って開催し、地元の人たちとも交流するというのを、これまで新潟などいろいろなところでやってきています。

牛木： この話が予算との兼ね合いの話であるということであれば、年に 1 回何をやるかはまた検討することにして、予算書の中で年に 1 回のイベントはいくらの予算にするというのがないといけないですよ。予算が 50 万円あるからこういう意義のあることをやろうというように考えないと、こういうのをやろう、けどお金がないというのではしょうがないですよ。

川井： 本来予算というのは、事業の内容があって、それを行うためにはいくらかかりますというように決めないといけないのですが、予算を決める時までには間に合わないんですよ。

牛木： 「シンポジウム補助」というのは、他にも財源があるということですか。

川井： シンポジウムは参加費をとって開催しますので、足りない部分については全体会計から出す。それが 20 万円です。

牛木： そうだとすると、予算案と別に事業計画案について審議するときに、どういうことやろうかということ審議すればいいんじゃないですかね。そうであれば、シンポジウムをどんなテーマでやるのか、

例えばドイツのワールドカップを総括するようなシンポジウムをやるのか、それとも日本代表チームが負けたから今後どうしていくかというのをやるのか。まだ負けるかは分からないですけどね。そのようなテーマを決めて、テーマによって時期があるでしょう。ワールドカップというテーマでやるなら7月では急すぎますしね。

名方：もし30分くらい時間あるなら、テーマをリストアップして議論してもいいですよ。

本多：今日決めるのは難しいでしょうから、6月に運営委員で集まって今後の計画ミーティングみたいなものをして、それまでの期間にみなさんからアイデアを募集してもいいですよ。

川井：本当はそのミーティングを総会の前に開いて事業計画案をつくり、それに対して予算案をつくれるといいですよ。

本多：これまではたいてい総会の場で、中塚さんが今年はこれやろうかと提案して、それで決定するパターンでしたよね。

中塚：そういった流れで言うと、今年度のテーマは前半ワールドカップ、後半の柱はサロン10周年です。1997年の3月末に「サロン2002」という名称にしようという話になって、97年4月の月例会から「サロン2002」という名称になっています。ですから今年度を終わるとちょうど10年。この10年間に何があったのかを振り返りつつ、次の10年を視野に入れるようなのが、今年度の後半戦のメインテーマです。これまでの10年間はサッカーを核にしてやってきましたが、次の10年間はサッカー以外の種目にも手を広げて、他を知ることと、他に対する働きかけをもっとやっていけないかなというのがありますが、そのようなことも取り上げたいですね。

本年度の前半戦は、ワールドカップがメインテーマでしょう。4月の月例会は、1974年と2006年のワールドカップの比較を取り上げたし、4月～9月くらいまでは、ワールドカップに関連する題材を中心に月例会を構成し、その1つの大きな場として、シンポジウムを11月に企画して、それと並行しながら後半の準備を進める。後半は、サロンの10年を振り返り、この10年間に起きたことをトピック風に追っていきながら、次の10年を視野に入れて意見交換できればと思います。学校スポーツの変化もあれば、サッカーの浮き沈み、フットサルの振興など、いろいろなテーマが考えられ、面白いのではないかと思います。

3月末に、10周年記念のミニシンポみたいなのをやると良いのではないのでしょうか。

鈴木：そういったテーマを集約してやっていけばいいと思うんですが、新しく入ってきた人がどういうことを期待して入ってきているのかとか、そもそも新しく入ってきた人は月例会に来ているのかとか、この会のメリットを感じているのかとか。どのような雰囲気を感じますか。

本多：月例会の参加者を見ると、やはり宇都宮人気が高いですよ。

鈴木：早川直樹さんが9月に話されたとき、サロンのホームページにアップされたじゃないですか。それで、とあるネットの掲示板にこれが大々的に取り上げられて、結構話題になっていたんですよ。サロンとはなんぞやとかね。ですから、サロン2002って名前だけ知っているとか、こういうのがあるらしいぞというのは、ネットの中に漂っているんですよ。ただ、クローズドな印象があるなというのを感じました。

中塚：その時の参加者の1人が、自分のブログでそのときの状況を、詳しくじゃないけど報告しているのがありました。サロンの月例会報告は、サロンのホームページ上でオーソライズされたものを出すというのが原則でしたけど、中には個人的な報告を出す人も出てくる。この時のものは良識ある報告だっ

たから別にいいけど、困ったものだなという印象があります。

本多： それは喜ぶべきことでもあるように感じます。ブログは基本的に日記なので、どこ行きました、何食べましたという中で、サロンに行ってきたというのがあるのもいいと思います。

牛木： それも書き方によりますけどね。ブログであっても、日記であっても、それが公開されれば書き方によっては著作権侵害です。技術的に防げないことは防げませんけどね。

■公開シンポジウム 2006 について

中塚： 月例会や事業の話から、10周年にあたってというところまで、幅広く議論しています。整理すると、月例会の大きな流れとしては前半ワールドカップ、後半サロン10周年。公開シンポジウムは、ワールドカップをテーマとして、11月に行う。

牛木： 11月というのには何か意味があるんですか。

中塚： 深い意味はないです。ただ、去年の総会で出た話なのですが、学園祭の時期でもあるので、どこかの学園祭に乗かってできないかと。そうすると学生たちがいっぱい参加できていいんじゃないかなというのがありました。

牛木： 東大の五月祭というのが5月27日、28日にあるんですが、その五月祭では東大のサッカー部が、ワールドカップについてのシンポジウムをやります。パネリストとしては、東大OBの岡野俊一郎さん、浅見俊雄さん、僕、後半だけけど広瀬一郎さんが出ます。これは、教室などは学校側が提供しますが、無料でやらなくてはだめです。このように大学によって学園祭についての規定が違うと思います。僕が前にいた大学は仏教系の大学だったものですから、新興宗教が入ってくるのを防ぐために、外部の主催者じゃだめでした。でも、11月にやるというのであれば、中塚さんの提案でもう決めたらいかがですか。僕はワールドカップが良いと思いますね。

田中俊： 11月くらいの、皆さんがワールドカップを忘れたころにやるのがサロンらしくていいと思うんですね。

中塚： 中央大学はいかがですか。若手スタッフもいることですし。

田中俊： 前に立教大学でやったときは学園祭ではなかったですよ。

川井： 何かやろうとしたときにスタッフの確保が問題ですよ。

田中俊： 学園祭のときに、スポーツイベント部とかと協力してできると思いますよ。

中塚： 中大の学園祭っていつですか。

加納： 11月1日～6日です。小林ゼミでやるっていうのはどうですか。小林さんは高橋先生と親しい筑波大出身の方で、岸さんのゼミの先生です。

岸： 都心の方がいいのではないのでしょうか。多摩でやるとなると、その目的をもって来た人しか来ないと思うんですが。

加納： 御茶ノ水の校舎でやると値段が高いですし、うちもお金を取るっていうのはだめかもしれませんね。

牛木： 参加者は何人くらいを想定していますか。

中塚： 100人も入れれば御の字ですね。

牛木： 100人っていうのは大変ですよ。僕は読売新聞にいたころ2年間シンポジウムなどを担当していましたけれども、読売新聞の宣伝力を持ってしても100人集めるのはなかなか大変で、それは有料・無

料は関係ありません。有料でもべらぼうに高くなければ関心があれば来ますしね。

中塚： 今までで1番多かったのが、2001年に最初にやった「ワールドカップへ向けて」というものでしたね。90人くらい集まったと思います。

牛木： 主催者にとって1番イライラするのは、お客さんが来ないということなんです。講師の人たちは割り切っていますからいいんですけど、主催者はいてもたってもいられないですよ。僕が読売新聞でやっていたときは、いつも核になるお客さんを押さえておくんです。例えば英語教育のシンポジウムをやった時には東京都内の中学高校の英語の先生の団体を押さえたんですが、それでもあまり集まりませんでした。それで、大きな会場を押さえると絶対だめなので、読売新聞の隣の、300人入れる経団連の施設を借りて、それ以上の大きな施設は借りないことにしていました。コツは、あまり大きな施設を借りないということと、核になるメンバーを押さえておくということですね。有料でOKという施設となると大抵高いですね。

加納： 誰を集めるかもありますよね。中大生100人でよければそれは集められると思います。でも、それでいいのかって話ですよ。

本多： 会場でいうと、ドイツ文化センターが青山1丁目で200人くらいまで入れるホールみたいなものがあるんですね。そこは、去年と同じような共催みたいな形になると思うんですが。

中塚： 去年からの流れもありますし、それを第一候補でいきましょうか。そもそも去年の総会で出た話も、ドイツとサッカーを絡めたものを、サロンっぽい切り口で何か出来ないかということだったんですよ。すると、ドイツと日本のスポーツ医学であったり、スポーツ環境の話、あるいは教育の話であったりと、いろいろできると思うんですね。ですから、去年やろうと思っていてできなかったことを、今年、ワールドカップと絡めながらやってもいいですね。

本多： ドイツ文化センターとしては、ドイツの文化などを日本に知ってもらうというのが存在意義なので、そういうことをやってくださいということであれば、彼らも喜んでやってくれると思います。

中塚： その窓口はまた本多さんでよろしいでしょうか。実際に動き出したときには、運営委員・理事が中心となって、どなたかに事務局長になっていただき進めていきましょう。

■10周年プロジェクトについて

中塚： これは今年の後半戦についてのことなんですけど、今日はもうそんなに時間がないので、理事会が中心となって、どのような中身でいくかということメールのやり取りをしながら決めていきましょう。何らかの総括の場を3月に持ちたいですね。そして、それまで何回かある月例会で、いくつかのトピックを追っかけながら、この10年間何があったのかというところを振り返っていければと思います。

■出張サロンについて

中村： 自分の母校の大学が九十九里にあり、自分は少年サッカーとかやっていたんですけど、そこで出会った方が、千葉のサッカー協会の方で、いろいろネットワークもあり、今年からずっとやっていた少年サッカークラブをNPO化して多世代にして、まだ多種目にはまだはいってないんですけど、熱心に動いている方がいらっしゃるので、自分も久しぶりに行って交流したいというのもあり、お互いにメリットがあればぜひ行きたいと思っています。今は、サロンとはどういう団体かとか、出張サロンで今までどのようなことをやってきたのかがわかる資料を自分が送り、相手の反応を見たいというところで、

まだ止まっています。

中塚： それはそれで、話ができるところは進めてください。特に関西圏でなかなか実施できないので、できればそっちの方でやりたいですね。他にはありませんか。

本多： ちょうど昨日神戸スポーツ応援団というところでやってきました。

加納： 昔から興味はあるのですが、まったくコネクションがなくて。

本多： NPOになっているんですけども、もともと神戸FCにいて今はヴィッセル神戸にいる加藤寛さんが理事長で、もともとサッカー中心だったんですが、今は手を広げて、体育館の管理などもやっているようです。

牛木： 加藤寛さんは子供の頃から知っていますが、お父さんが神戸FCを作られたんです。だから、連絡取るとは可能ですが、皆さんが何をしたいのかが分かりません。アスリートタウンはどんなことをしているのかを聞いてみたいのか。いっぱい施設がある訳ではないと思うので、フランクフルトでスポーツクラブを見ようというのと訳が違うと思うんだけど。何かしたいから協力してくれないかと言えば、できることはやってくれると思います。

本多： ちょうど昨日は賀川さんが講演したんですが、毎月セミナーを開いているみたいです。そのようなセミナーをサロンが共催するという方法もあるかと思えます。

中塚： 本来の出張サロンは、全国にいるサロン会員が、例えばその地域の活動なり問題点などを紹介して、サロンの、ここにいるような人たちが行って、地元の人たちと意見交換する。原型は新潟ですね。その時は新潟にアライアンス 2002 という団体があって、サロン会員の小島君が、作ったはいいけどなかなか新潟が盛り上がらないということで、出張サロン in 新潟を企画して、宇都宮さんや、川井さん、現在フロンタールにいる竹中さん、僕などが行って、いろいろディスカッションをしました。他にも、清水に行ったり、刈谷に行ったり。地元にいる会員の方の問題意識をもとに、それについて意見交換するというのがないと、ただあそこへ行きたいなというだけではちょっと薄い気がしますね。

名方： 花園でやられている方がいるじゃないですか。その方とはその後何度かお会いしたんですが、その方は花園ラグビー場をNPOとして、指定管理者みたいな形で管理して、ラグビーだけでなくサッカーなどさまざまなスポーツを行っているようなので、そのようなところに行って意見交換するのもいいですよ。

中塚： そういった話題が出たということを会員の方に投げかけて、出張サロンを誘致する意思があるか、もしあればそこで開催するという事にしましょう。

■情報発信について

中塚： 情報発信ということで、サロン通信をいつも送っております。通信のポイントは月例会の案内です。月例会報告はホームページに載るので、会員じゃなくても見られるけど、案内は会員じゃないと見られません。これからもこの形は守っていきたいと思います。ただ、メーリングリストのところ、本日は来られていませんが管理人の沸田さんから、いくつか問題点を指摘してもらっています。名簿作成時以外の途中入会者のメールアドレスについてというところで、正確には入会の意思表示をし、会費を納めた方が会員なのですが、会費を納めない人にも通信は送っているんです。けど、メーリングリストは会費を払っている方にしか届きません。ところが、その確認がうまくできていないというのが問題なんです。ですから、便宜的にサロン通信と同じように、入会の意思表示をした人にはメーリングリストが届くよ

うにした方が、技術的には楽なのかという気もしています。他の問題は、メーリングリストに保存しているメッセージの量がいっぱいになっているということです。

川井：先生から送っているものは、会費が払われていないからといって止めてしまうと、連絡が取れなくなってしまうということですよ。

中塚：メーリングリストについては、会費が払われているかをその都度確認して、湧田さんに連絡する作業が生まれるわけですね。

川井：新規会員が入ったら、会費が払われているか、銀行に行って記帳して、今までは中塚さんに連絡していたものを、湧田さんにも連絡するだけなので、それはできますよ。

中塚：じゃあそれを徹底しましょう。会費を払った正式な会員だけがメーリングリストに登録できるということを改めて周知しましょう。

■サロンオフィシャルサイトについて

中塚：今年度から始まる「ホームページへの名簿掲載」というところで言うと、以前は名簿掲載する欄がありましたよね。サロンが何かは、それを構成している人を明らかにしないとわからないということで、名前だけは掲載しよう。ついでに、名前とともに一言コメントを載せていかは会員の意思を聞きましようということにしていたのですが、2005年度のホームページから消えてしまったんです。それで、2006年度、再び会員の名前が載る欄を作ってくださいというのが事の発端で、だけど中身全部を載せるとは思ってなくて、ホームページに掲載できる自己紹介を書いてある人は名前の隣に載せる、書いてない人は名前だけ載せる。名前を載せないということはない、ということです。「シンポジウム報告書の掲載について」というのは、ワールドカップ総括シンポジウムの報告書がホームページに載っているのですが、それから先が載っておらず、もったいないなということです。「更新頻度と作業の正確性について」というところは、純粋に作業のことだろうと思うけど、大変じゃなかったらもう少し頻度を高く更新してもらえないかということです。どうですか。

本多：うちの会社の激務のせいでそこまで手が回っていないところですが、そこはしっかりとやらなくちゃいけないと思っています。

II. 規約について

中塚：本年度は、基本的には規約の見直しはありません。ですが、そもそも昨年度の名簿に古い規約が載っていたので、最初から規約についての作業をおこなっていただいている両角さんに見直していただいたものが、配布したプリントに載っているものです。それが今年度の名簿にも載っているのですが、それをもう1度確認している時に、両角さんが新たなミスを発見しました。

両角：単純な間違いなので、修正でも全然構わないと思うんですが、理事会ではどうなりましたか。

中塚：これに関しては、まだ理事会を開けていません。具体的に言うと、第13条4項で、「監事は役員会に出席して意見を述べるができる」となっているが、役員会は存在しないので理事会に修正すべきだということです。印刷物はこのままになっているんですが、ホームページの方は変えてもいいんじゃないかと思うのですが。

両角：総会の後に、遡及で理事会の了承を得ますか。役所とかですと、省令を間違っちゃうときがたま

にあるんですが、そのときは、間違っていましたという過誤修正を官報に出すだけで修正しちゃうんですよ。だから、「規約の改正」ということではなく、「改正漏れ」ということで修正していいと思いますよ。中塚：それでよろしいですか。では、この議事録とともに、会員に修正のお知らせをして、ホームページもここを修正するという形で処理しましょう。規約は 2005 年 3 月 18 日が最終改正。その根拠は、2005 年 3 月 11 日付の理事長メールで、規約をこういう風に変えました。1 週間を期限に何か問題があれば連絡くださいと言ったところ、何も問題がなかったので、3 月 18 日に改正されたという認識。それから、役員を選任手続きに関する規定が、昨年度の総会で議論され、それから理事会での議論もあり、2005 年 8 月 11 日に承認されました。動かし方として、役員候補者選考委員会を必要に応じて組織する。そして、委員は理事会の議を理事長が委嘱するということですが、私の腹づもりとしては、前回の選考委員会も本多副理事長になってもらったのですが、選考委員会の委員長は副理事長になってもらいたいと思っていますので、今年度もよろしくお願いします。

Ⅲ. これからのサロンの方向性—特に「会員」について

■会員について

中塚：我々としては、当初、比較的高めのハードルを設定していて、志を同じくし、かつ GIVE&TAKE できる人ということでは言っていました。しかし、何年か経過する中で、サロン 2002 に対する思い入れを、ずっと同じ温度で維持できるとは限りません。それでも「遠くから見守っている」温かい人々もいるはず。そういう人たちが、「今年は GIVE&TAKE できないから退会するよ」とするのはなく、「GIVE &TAKE できないけど、サロンの活動を応援するよ」という人もサロンの会員であるとしたのが、「退会の意思表示がない限り会員である」とした部分です。しかし本年度、8 名の退会者が出たというのは、この趣旨がうまく伝わっていないのかなという気がしています。

麻生：先ほどの、月例会をどうするかという議論とも関連するんですけども、鈴木さんがおっしゃられたように、半年や1年間のテーマを設け、それをこれから会員になる人にも伝えてやっていくのがいいと思いますが、事業担当として何をやるかと考えたときに、会員が多く集まるのは、名前を知っている人の発表の時や、何か特別な活動をしていてその関係者が来る時だなという気がしています。そうすると、あとから来る人は、自然と話を聞くだけの人になっているのではないかと、こちらとしては、人を連れて来られるだけの発表者を呼んで来なければいけないような感じになってしまうと、僕に何かできるかなと考えてしまうところがあるんです。それがあって、多くの人に来てもらうために、名前を知られている人を呼んでやる時と、今まで同様、サロンの会員内でやる時を明確に分けるなどしてもいいのかなと思います。毎回毎回月例会で、人が集まりそうな話をするのは難しいなという気がします。やり方自体を考え直す必要もあるかもしれませんね。どういう風にやったらいいかというのはまだないですけど。

中塚：例えば、初回参加者の参加費を取らないという話がありましたね。

両角：議事録を読んだら去年も同じような話しをしていましたね。私の発想では、紹介されたから行ってみようかとなった時に、行ってみるまでその内容はよく分からないですよ。人それぞれ想像して行くわけです。そして、行ってみたらおもしろかった、これからも参加したいという人はいいのですが、なんだこんなものか、という人まで 1000 円取ってしまうのはどうかと思うので、「おためし料金」として

初回は無料にしていけないのではないかということです。2回目以降は内容も分かっているので、もちろん支払うべきですが。初回参加者のデータとかは取っているのですか。

中塚：ありません。

両角：初回参加者が次来るまでのインターバルはどのくらいあるかなどのデータがあると議論しやすいですけどね。

本多：事前の告知をもう少しやるかやらないかというのがありますよね。基本的に外から見ればクロージドですよ。

両角：シンポジウム場で宣伝してもいいと思うんです。シンポジウムるときに、サロンの過去の実績であるとか、年間このようなことをやっていますよというデータを配ってもいいですよ。あるいは、サイトのURLを教えるという方法もあるでしょう。会員にならなかったけど、月例会に来た人の数とかも分かるといいですね。

中塚：田中さんのお友達が何人か月例会には来たけど入会にはハードルが高いという方がいらっしゃいましたね。

田中俊：名簿に入会のきっかけくらい書いてもいいですね。

中塚：初回参加者無料制度はあった方がいいですか。当初はこだわりがあったのですが、今の話を聞いていると、別に無料でもいいかなという気がしてきました。

田中俊：繰越金もたくさんあるらしいですし、僕はいいと思いますけどね。

鈴木：半額サービスはだめなんですか。公平性というのがあると思うんですね。みんなで手弁当でやっていますというのが1000円集める趣旨でしょ。印刷費とかもあるので、ワンコイン置いていってこれというのもありかと思います。500円の負担だったら無料でもいいかと思いますけどね。人それぞれ経済感覚は違いますから何とも言えませんが。

岸：その人の満足度に合わせて徴収する方法もありますよね。

牛木：「試供品」はただでいいと思いますよ。無料か、公平に1000円集めるかのどちらかでしょう。

中塚：じゃあ初回無料にしましょう。もちろん発表者への10000円と、報告書作成者への5000円は今まで通りで。

両角：やってみてだめだったら戻せばいいじゃないですか。

中塚：そうですね。

IV. その他

■ SNSについて

本多：先ほどお話ししたSNSについてなんですが、うちの会社の宣伝になってしまい恐縮ですが、スポーツ専門のSNSを今年から立ち上げていまして、その中で1つ、サロンのコミュニティーをつくらせていただけたらどうかと思っています。正式なものでなくても、サロンの会員やサロンに興味がある人は入れるということで、どんな人が集まってどのようなことをやっているのかということのを他の人にも幅広く知ってもらえるような機会になると思います。SNSは一度やってみないと分からないと思いますが、自分のプロフィールや日記をアップしながら、友達を招待して、繋がっていくサービスです。アメリカに行くと5000万人くらい、中国に行くと1500万人くらい参加していて、日本ではmixiというサ

ービスに 400 万人くらい参加しています。これはお金もかかりませんので、トライアルということで、参加される方がいらっしゃったらどうぞというスタンスでお試しいただけたらどうかなと思っています。私どものサイトは現在招待制度なしでやっています。どこかのタイミングで招待されないと入れないようにしようと思っているんですが、今、立ち上げ 1 週間で参加者 400 人くらいですね。軽い気持ちでやっていただけだと思います。mixi ですと、宇都宮さんファンのコミュニティーがつくられています、CROSPO でも同様にGOAL！という映画の公式コミュニティーであるとか作られています。

再び I. 2006 年度事業計画及び予算

2. 予算の確認

中塚：最後に予算書の、支出の部分を確認しましょう。

川井：月例会補助については前年度ベースで考えてなかったんで、少し減らしてあります。その代わり、繰越金は増えましたので、そのお金をプロジェクト補助にあててあります。印刷製本費については今まで通り、名簿の印刷に、通信運搬費も今まで通りの使い道を考えています。ただ若干増えているのは、宅配便などを使って資料のやりとりなどを行っているためです。借損料、雑役務費、事務費についても今までと同じです。そして、予備費は前年度と同じくらいにしているという状況です。

中塚：プロジェクトその他補助というところで、ちょっと具体化はできないけど、次年度も何かプログラムに補助するといことが出てくるかもしれませんし、皆さんが関わっている活動でこんなにもいいものがあるのにお金が足りないということがありましたら、場合によっては応じてもいいのかなと考えていますのでどんどんオープンにやっていきましょう。

中塚：では、以上で本年度の立ち上げ総会を終わりたいと思います。ありがとうございました。